

日吉台新聞

HIYOSHIDAI

発行

日吉台学区
まちづくりセンター発行責任者
林 堅太郎編集責任者
野々口 義信日吉台学区
個人情報保護方針
取り扱い文書

学区ホームページ

立地適正化計画質問状に回答

大津市

「法の規程で誘導区域に設定できない」

大津市の立地適正化計画で、日吉台が居住誘導区域から外れている問題で、大津市都市計画部は3月10日、日吉台学区自治連合会から提出されていた同計画案に関する公開質問状について、遠藤健・同市都市計画部長名による回答を行った。回答によると市は「日吉台は、地すべり防止区域に指定されており、法の規定により立地適正化計画では、誘導区域に設定できない」とするなど、従来の方針を踏襲する回答を改めて示してきた。（市の回答については学区ホームページに掲載している）

回答には、市都市計画部の坂本和好・都市計画課長らが日吉台市民センターを訪れ、丸山郁夫日吉台学区自治連合会長に回答書を手渡し、説明した。

自治連合会側が提出した公開質問状は、①日吉台を居住誘導区域に編入できない理由。誘導区域にするにはどうすればよいのか②誘導区域から外れた場合、学校や市民センターが統廃合の対象になったり、改築の優先順位が下がるといった公共施設への投資面での不利やサービス低下がおこらないか。公共交通の維持に対する行政の取り組みは、誘導区域と同等におこなわれ

まちの将来、不安と懸念

るか③転入の減少でコミュニティの維持も困難になる。このようななか、マスタープランに掲げる「良好な住環境の維持、拡充」をどのように実現させるのか④滋賀県告示で地すべりによる土砂災害警戒区域は全体の1割程度。なぜ全域が居住誘導区域外になるのか⑤全域がハザード地域で居住誘導区域外とするのであれば現住民の居住は危険ではないのか。危険でないのなら逆になぜ居住誘導区域外になったのかの5項目。

市の回答は①について、国の都市計画運用指針で原則として、地すべり防止区域は居住誘導区域に含まないこととすべきとあり、都市再生特別措置法施行令でも居住誘導区域と定めない区域とされ、居住誘導区域に設定できない。地すべり防止区域の廃止の告示があった場合は、市の設定方針に照らし、改めて判断する②について、居住誘導区域の設定の有無に関わらず、学校や市民センター等の施設は、必要な施設。市のどこに住もうとも市民がその生活を維持できるように行政サービスを提供してゆく。今後とも地域公共交通を維持確保する方針で、居住誘導区域の設定の有無とは全く関係ない。③について、人口減少局面で拠点の人口密

度を維持ができれば大津市全体の都市機能が低下、市民の生活利便性を守る事が困難になり、大津のまちを維持することができなくなる。都市計画マスタープランに示した地域別構想に基づき、自助・共助のまちづくりを地域と共に進めていく。④について、指摘の県告示は、土砂災害防止対策の推進に関する法の指定であり、地すべり防止法の規定による地すべり防止区域の指定は、根拠法が違ふ⑤について、日吉

台では、県が把握している地すべりが発生する可能性がある「地すべりブロック」を中心にさまざまな調査観測を実施しているほか、地すべり対策協議会などで地域とともにパトロールなどの日常管理を行い、緊急度の高い箇所から防止工事を行っている。居住誘導区域に設定しない理由は、①と同じとした。

回答を示したあとの質疑、説明で、丸山・学区自治連合会長ら自治連側の「日吉台のまちの将来を考えると、居住誘導区域外は、人が住むことにブレイキをかけている。学区に行政投資ができないのではないか。外部に向けてこの計画はプラスにはならない。まちのイメージを低下させる」と計画を不安視する声に坂本課長らは「この計画は、大津市の都市の心臓部、核を守るもの。日吉台が居住誘導区域から外れても、住民が住んでいる以上、必要な施策はすべきものはする」と述べ、住民の理解を求めた。

大津市の市街地をコンパクトに再構築し、持続可能なまちづくりと活性化をめざす市の立地適正化計画。この計画の立案段階で、日吉台学区が人口を集中させる居住誘導

区域から外されていることが判明、学区では、空き家対策や認定こども園誘致など、若年層の定住化はじめ、人口流入増による活性化策をまちづくりの柱に据え活動が続けており、人口流入を阻害させかねない誘導区域除外の計画立案に「学区のまちづくり方針に真つ向から反するのでは」と強い懸念の声があがっている。

子ども食堂

感染防止のパーテーション製作 社協、老ク連が共同で手作り



子ども食堂で使うパーテーションを作る学区の老人ら

学区社会福祉協議会（呉屋之保会長）は、学

区老人クラブ連合会（野々口義信会長）の協力で、

新型コロナウイルスから子どもたちを守る感染防止のパーテーションを製作、再開を計画している新年度の子ども食堂で使うことにしている。

令和2年度の子ども食堂は、新型コロナウイルス感染症拡大で、開催を中断している。新年度にコロナ禍が落ち着いたら食堂の再開を検討しているが、会場の市民センター大会議室では、常に参加者の子

新型コロナウイルスから子どもたちを守る感染防止のパーテーションを製作、再開を計画している新年度の子ども食堂で使うことにしている。製作には、子ども食堂のスタッフや地域の有志の人たち、協力を申し出た学区老人クラブのお年よりたち延べ60人が、4日ほどかかって縁どりのダンボールをカットし組み上げ、透明塩ビ板を糊付けして完成させた。

つながる安心

お出掛けの際は
スマホ・携帯を持ちましょう



安易に猫にエサをやらないで！

2匹の成猫から1年で20匹に増える
繁殖力があると言われています

エサやりと飼育管理

はセットで行ってください

祝

「日吉台至明こども園」開園

日吉台幼稚園跡地に建設されていた「日吉台至明こども園」の園舎建設工事が完成、3月14日完成式のセレモニーが行われた。完成式は、新型コロナウイルス禍のなか、感染防止のため参加者をごく少数に絞って実施、施設を運営する社会福祉法人「一向山福祉会」の西川義光理事長ら関係者が真新しい園舎前でテープカットし完成を祝った。同園は4月1日に開園、子どもたちを迎えることになり、合わせて同園では、午前7時から2、3時間午後5時から同7時まで就業できるパートでの保育士を募っている。問い合わせは同園（0771-5741708）まで。完成した同園施設をカメラで紹介する。



2階に設けられたプール



真新しい園舎の前でテープカットし完成を祝う

子どもたちがのびのびと遊べる広い園庭と園舎全景



木材をたっぷり使ったあたたかみのある保育室

2階の幼児用トイレ



お礼に手づくりマスク贈呈 日吉台小卒業生ら

スクールガードの代表者らにお礼の手作りマスクを送る6年生



天窓を多く設置太陽光を取り入れ明るい遊戯室ホール

「6年間、見守りありがとうございました。」
日吉台小6年生の子どもたちが卒業を前に3月12日、登下校時の見守り活動をしてきた日吉台自主防犯推進会スクールガードの人たちに、6年間の感謝の意を込め、手作りマスクを贈った。
同小の今年の卒業生は30人。プレゼントしたのは2月中の家庭科の授業時間に、子どもたちがミシンがけやアイロンなどを使って仕上げた手作りの布マスク約30枚。
毎年、同小では6年生が卒業を前に、スクールガード活動に感謝して手作りの座布団や小物入れ袋などを贈っている。
マスクには、子どもたちの感謝のメッセージも添えられ、この日6年生の教室で、学校を訪れたスクールガードの山下英子・日吉台自主防犯推進会長らに贈呈した。